市長就任のあいさつ

**真の豊かさ実感都市　笑顔あふれる大崎を目指して**

**大崎市長　伊藤　康志**

去る４月15日に執行されました市長選挙におきまして、市民皆さまからの力強いご支援、ご支持をいただき、四選を果たし、引き続き市長として、大崎市の市政を担うこととなりました。

　市民の信頼と期待に応えるべく、新たな決意と情熱をもって「真の豊かさ実感都市 笑顔あふれる大崎」の実現に向け、誠心誠意取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

　これまでの３期12年は、市民の皆さまと共に、合併後の一体感の醸成と、震災からの復興を最優先課題に取り組んでまいりました。

　合併協定項目については、２７９項目のうち２７５項目の調整を終え、達成率は、98・６％になります。

　行財政改革におきましては、第２次行政改革大綱への不断の取り組みにより、おおよそ１３４億円の経費節減を達成し、現在は第４次集中改革プランに鋭意取り組んでおります。

　また、市の蓄えである財政調整基金の残高を、平成29年度末においては、１３０億円にすることができました。

　人口減少による社会構造の変化は、本市にとりましても大きな課題となります。本市の豊かな地域資源、地域の力を集結し、持続可能な地域社会を築き、未来の子どもたちのため、笑顔あふれる大崎を創造してまいります。

温故創生

今後の４年間の市政運営の理念として、「故きを温ねて新たなものを作り出す」という意味で「温故創生」を掲げてまいります。（「温故知新」の造語）

東北新時代への挑戦

内陸の復興モデルを目指し、震災復興計画と中心市街地復興まちづくり計画の確実な実行を最優先課題とし、災害公営住宅の整備などに取り組んでまいりました。

　にぎわいの創出の先駆けとし、中心市街地の中核となる(仮称)道の駅おおさきの整備と、本庁舎建設事業を復興まちづくり計画の総仕上げと位置づけ、推進してまいります。

　また、田尻総合支所、鳴子総合支所の庁舎建替え事業につきましても、地域の特性を生かした庁舎建設を進めてまいります。

連携・醸成・発信　次世代につなぐ産業の創造

持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の伝統的水管理システムが、イタリア・ローマに本部を置く、国連食糧農業機関(ＦＡＯ)から、世界農業遺産に認定されました。広大なエリア、歴史的背景、生活、文化そのものが認定され、大崎市の次のステップとして、大崎耕土で生産される農産品のブランド力、付加価値を高めるため、安全で高品質な農産物の生産と、発酵文化を取り入れた６次産業化を推進してまいります。

　先人が築いてきた資源の宝庫「大崎耕土」を未来へつないでいくことが、わたしたちの使命であり、さらに磨きをかけ全国、世界に発信してまいります。

　また、インバウンド、アグリツーリズムの展開による交流人口の拡大、地域経済の循環を図ってまいります。

　加えて、本市の魅力を市民の皆さまに再発見していただき、ふるさとへの愛着を深めていただく機会とするとともに、ふるさと教育につなげてまいります

豊かさ 実感都市の実現

放射能汚染物質の解決に向け、国・県と共にこれまで努力を重ねてまいりました。時間的経過もあり、未解決のまま、次の世代に先送りすることがないよう、最優先に取り組んでまいります。

　震災復興を完了するために、解決に向け市民の皆さまに説明を重ね、早期解決を図ってまいります。

地域を支える　自治組織の躍進

話し合う協働のまちづくり条例による、市民が主役の協働のまちづくりのため、地域自治組織の体制強化と地域で支える仕組みづくりを推進してまいります。

　また、青少年の学びの場と新たな時代の創生のために、多くの市民、若い世代、女性の活躍する機会を広げ、次世代のリーダー育成を推進してまいります。

４期目の就任にあたり、総合計画に掲げる将来像「宝の都(くに)・大崎」の実現に向けて、市民の皆さまと共に全力で市政運営にあたってまいります。